令和元年度　洋野町立種市小学校　《発行日：令和２年１月２２日》

校報 水緒

No. 1285

元年度・第１４４号

子どもを語る父親グループ

～教育（子育て）の不易と流行～

これは、ある年の「晩夏　夜７時」ころ、「由緒ある寺の縁先」で銀行員、農協職員、商店主、僧侶、教師、会社員、医師、郵便局員の会話です。

Ａさん；この頃の子ども達は、活発で思ったことをずばりと言うし、社会的でじめじめしたところがなく、知恵や表現力も豊かになったとか。

Ｂさん：それは認めていい。だが、反対に人の迷惑を考えない。根性がない。とか

Ｃさん；むしろそれはおとなだよ。もちろん子どもの指導も必要だが、子どもの側だけそれを責めるのは酷だと思うな。

Ｄさん；口を開けば「今の子ども達は」と言うけれど、大人もそうだから子どももそうなるんだよ。

Ｅさん；それは、毎日のニュースや新聞が証明しているとおりだよ。

Ｆさん；子どもが責められる多くのものは、親の日常の言動に原因があるよ。

Ｃさん；社会が悪いからだと言うけれど、少なくともしつけに関してだけ言えば、それは親の言い逃れに過ぎんよ。

～　略　～

Ｈさん；親の独りよがりでやるのだったら、かえって子どもの将来のためにならんよ。

Ｃさん；ところで、今晩は父親だけの集まりだが、しつけを母親につまり奥さんにだけ任せている御仁はいないだろうか。

Ｅさん；いないと思うな。みんな立派なことを言ってるもの、父親としての土俵に上がっているよ。

Ａさん；そのためにも大きな夢を持たせよう。そして、叱る時には厳しく叱り、勝手気ままには育てないことだ。

Ｇさん；子ども達よ、希望に胸をふくらませよ。空の高さを知り、海の広さを知ろうよ。

以上の会話は、あちこちで日常的にされている内容であり、特段何もめずらしいものではないでしょう。しかし、この会話は本校に昭和４０年度から昭和４２年度まで勤務された第12代の校長先生であった、中村健三先生が昭和４６年の著書「カニの親」の中で記した一節です。

中村校長先生は、種市小学校勤務後には、岩手町と盛岡市の小学校校長も務められましたので、この会話は種市小学校が舞台とは限りませんが、現在に当てはめてもほとんど違和感のない親の会話が、昭和４０年代にも繰り広げられていたことがわかります。

当時も子どもや社会の進歩や変化が目覚ましく、親たちが子どもだった頃の「価値観」や「道徳観」、「生き方」などが激変して『大人』が追い付けず戸惑いながらも、子育てや教育の『不易』について語り合っている様子がよく伝わってくる一文です。

この「カニの親」に登場する当時の保護者の姿や子育て（教育）と現在と共通している点は、

①「親父」も主体的、積極的に子育てにかかわる大切さ

②「甘やかす」と「甘えさせる」を誤らない大切さ

③「夢」を持ち、夢を語る子育ての大切さ

④家庭内における「しつけ」（家風の確立）の大切さ

などなど、現在と全く共通する事が昭和４０年代にも語られているのです。

共通点が多くある半面、この文章が記された昭和４０年代と比べ、数人が集まり炉辺談話や世間話、井戸端会議をする時間や空間（場所）、仲間の、いわゆる『３つの間』が大人の社会でも確実に減ったということが大きく異なるところだと思われます。

時間や空間（場所）、仲間といった『３つの間』の減少で危惧されている事は、５月１６日発行の校報１１６５号「運動器検診って？」や９月４日発行の校報１２１７号「脳力の日で心の体も開放中！」、８月２６日発行の校報１１２１号「雨ニモアテズ」でも記した通りです。

この数人が集まり行われる炉辺談話や世間話、井戸端会議は、子育てや教育についての情報交換の場となっていただけでなく、気分転換やストレスの発散の場ともなっていたはずです。

このような「顔が見える関係」は先輩から後輩への伝統や文化、法則、習慣などの伝承される関係であっただけでなく、互いの絆を強固にしていくものです。

現代はＰＣやスマホなどの発達と普及、浸透で、全世界が結ばれている時代となっていますが、これからも「顔が見える関係」を大切にしながら、時代が変わろうが、変わってはいけないこと（不易）をしっかりと見据えながら、「顔が見える関係」の、ＰＴＡ活動や教育振興運動、学級懇談会、地区懇談会などをこれからも大切な『教育活動』として位置付け、種小っ子を育んで行きたいものです。

なお、中村元校長先生については、４月２５日発行の校報１１５６号「それをするのが掃除当番、あなたたちだ」でも触れています。

この「それをするのが掃除当番、あなたたちだ」について、当時の養護教諭（出羽気和子先生）が記した文章もこの号には掲載しています。

本校のホームページの閲覧数が８万５千件に迫っています！

本校のホームページの閲覧数が、本日の１０時の時点で８４,５５４件になっています。

平成２８年５月２０日発行の『水緒・７１７号』で「まもなく５万４千件です」と、平成３０年４月１２日の『水緒・９８３号』で「まもなく７万件です」と、令和元年６月１２日の『水緒・１１８０号』で「８万件を超えていました！」と、お知らせしてきましたが、その後も閲覧数が順調の伸び、既に８万５千件に迫っていました。

本校の教育活動に興味と関心を持っていただいている方が多くいる事をうれしく感じています。盛岡にお住まいの方から「定期的に閲覧していますよ。」という、うれしい話もいただいています。

これからも、種小っ子の姿をどんどん発信して行きます